

# サロベツ原野

(さろべつげんや)

位置：北緯45度03分、東経141度42分／標高：3～7m／面積：2,560ha／湿地のタイプ：高層湿原、中間湿原、低層湿原、淡水湖／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区、国立公園特別保護地区および特別地域／所在地：北海道豊富町、幌延町／登録：2005年11月／国際登録基準：1、3、6／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：高層・中間・低層湿原、淡水湖



サロベツ原野と、湿原を彩るエゾカンゾウ

## 湿地の概要：

サロベツ原野は、北海道の北端、稚内市の南約40kmに位置する泥炭湿原で、その中心部の高層湿原など2,560ヘクタールが条約湿地に登録されている。

かつては東西8km、南北27km、面積1万4,600ヘクタールの広大な湿原だったが、1960年代以降の大規模開発で急速に減少した。それでも、サロベツ川が湿原の周りを大きく周回していたため、水位の変動は小さく栄養分の供給は少ないなど、高層湿原が発達する条件が整っていたために、平地の湿原としては日本最大級の高層湿原が残された。

湿原は西側の南北に走る砂丘で日本海と隔てられ、湿原中央部には、ホロムイイチゴイボミズゴケ群落、ホロムイソウミカヅキグサ群落、ナガバノモウセンゴケウツクシミズゴケ群落、ヌマガヤーホロムイヌゲ群落など高層湿原、中間湿原、低層湿原が同心円状に発達している。そして南側にはパンケ沼、パンケ沼をはじめ大小の沼が点在する。

かつてサロベツ原野は大きな潟湖で、6,000年ほど前から砂丘の発達によって

海と遮断されて湿原の形成がはじまった、その過程でできた海跡湖沼である。

## 色とりどりの湿原植物：

春から秋にかけて、サロベツ原野では100種以上の植物が花を咲かせる。ツルコケモモ、モウセンゴケ、ワタスゲ、ヒメシャクナゲ、エゾカンゾウ、タテヤマリンドウなど、色鮮やかな花々で湿原は埋めつくされる。北側のサロベツ湿原センターと幌延ビジターセンター周辺には木道が整備され、これらを間近に観察できる。

## 渡り鳥の中継地：

パンケ沼、パンケ沼は、水鳥の繁殖地、渡り鳥の中継地として重要で、オオヒシクイ、コハクチョウは東アジア地域個体群の個体数1%を定期的に支えている。シマアオジの数少ない繁殖地のひとつでもある。

## 上サロベツ自然再生事業：

サロベツ原野の一部では、農地造成や河川改修など多様な人間活動の影響によって地下水位の低下と地盤沈下が発生し、湿原の乾燥化が進み、ササの侵入によって高層湿原が減少している。そのため、湿原の消失と劣化、農業との両立など課

題解決に向けた自然再生の取組を進めている。

**【高層湿原】** 低層湿原、中間湿原の発達を経て、泥炭の集積がさらに進むと、地表面が盛り上がり、降水や海霧など天水だけで涵養される貧栄養性の高層湿原になる。ミズゴケ類が優占し、貧栄養、過湿な条件で生育できるツツジ科の低木や、モウセンゴケなどの食虫植物、小形のスゲ類などが群落を形成するようになる。

## ●関係自治体

幌延町役場 Tel: 01632-5-1111

豊富町役場 Tel: 0162-82-1001

